



鴨沂高校同窓会報 第14号

発行：京都府立鴨沂高等学校同窓会 〒602-0856 京都市上京区荒神口通り寺町東入ル荒神町 105 鴨沂会館内
TEL(留守電)& FAX 075-212-4445 mail: ohkidoso@yahoo.co.jp http://ohkidoso.org/



母校での思い出に愛着を持ち、在校生を応援する同窓生からの募金をお願いします 京都府立鴨沂高校同窓会 会長 木村 亮

同窓会の皆様には益々御健勝のこととお慶び申し上げます。2022年秋の総会での会長就任以来早く

も2年半の歳月が経過しました。

川井秀一元会長と葎阪直行前会長にお会いし、「若い人に会長をお願いしたい。これからの3年間は大きいイベントは無いから」と口説かれ、引き受けさせていただきました。最近の大きな活動として2018年に新校舎落成記念事業が実施され、2022年11月15日に開校150周年記念式典と祝賀会が開催されました。これらの活動には、二人の会長を中心にした同窓会の皆様の力によって成し遂げられたものでした。

現在の鴨沂高校は、加入率90%以上の部活動が活発で、現役で希望する進路を実現でき、京都文化を学び世界に発信できる人材を育成するという特色ある高校として、在校生は目標を持ち伸び伸びと3年間を過ごしています。

私は会長として、2023年11月と2024年11月にそれぞれ1年生を対象に「世界の未舗装道路を住民と造る」と言うタイトルで、私がアフリカをはじめ世界31ヶ国で20年間の長きにわたり活動しているNPOのお話を紹介しました。在校生の顔を見てお話ができる貴重な機会でした。その中から勇敢な一人の男子学生が、1ヶ月間アフリカのウガンダ北部の村で道直しのインターン生として活動

しました。「君たちの可能性は無限大だ、世界に飛び出して自分の目で見てみよう」という講演の趣旨を理解し、具体的実践してくれたことは、望外の喜びでした。

本同窓会では、2018年の新校舎落成記念事業で同窓生の皆様から頂いた寄付金の一部により、在校生の国際研修支援のための国際交流基金の設立を行いました。鴨沂高校では在校生が隔年でフランス南部モンペリエ市のジュールゲート国際高校(2016年に姉妹校提携)に文化交流のための研修旅行に出向きます。その旅費の一部を助成基金から支援してきました。今後も在校生が国際交流の体験を得て、文化の交流や発信のためのコミュニケーション能力を身に付け、自己実現に繋がる経験を積む機会を応援したいと願います。在校生の国際研修の助成を継続するために、「京都府立鴨沂高等学校国際交流基金」を開設し、ご寄付をお願いしています。同窓会の皆様の賛同をいただければ、大変有り難く思います。

同窓会活動は、末川協理事長と福田智子事務局長をはじめとする多くの理事の皆様や、松井佳代美校長を代表とする教職員の皆様の、ボランティア精神により成り立っております。今後も皆様のご協力をいただき、鴨沂高校の在校生をはじめ卒業生の方々に有意義な同窓会として発展していただければと願っております。

2025(令和7)年度

2025(令和7)年度 京都府立鴨沂高等学校同窓会 ホームカミングデイ・第11回総会

日時：2025(令和7)年11月8日(土)

ホームカミングデイ：14時～受付・総会：15時30分～受付

会場：京都府立鴨沂高等学校 講堂 TEL 075-231-1512

京都市上京区寺町通荒神口下ル松蔭町131



鴨沂の教育活動への御支援に感謝！

京都府立鴨沂高等学校 校長 松井 佳代美

ちょうど150周年記念の年に赴任し、本年度で校長4年目となりました。同窓会の皆様には、記念行事のみならず、その後も国際交流事業、奨学金、学校行事などで常に御支援を頂いておりますことに厚く御礼申し上げます。在校生は同窓会の皆様の御支援に応えるべく、勉学に、探究活動や国際交流に、そして部活動にと精力的に励み、大きな成果を上げております。本年度の同窓会総会ではホームカミングディとして、同窓生の皆様が在校生が案内したり、フランス研修の報告をしたりする予定でございます。お時間の御都合がつくようであれば、母校へお越しいただければ幸いです。

躍進する鴨沂高校

- ①令和6年度卒業生は国公立合格者24名、私立大学は関関同立41名を含む576名が合格（延べ数）。
- ②水泳部（水球女子）は全国JOC夏季大会で全国優勝、日本選手権出場。自転車競技、弓道、フェンシング部が全国大会に出場、書道部、合唱部が全国高等学校総合文化祭に出品、出演するなど、加入率約90%で活発な部活動。
- ③京都文化コース生徒の研究論文が全国高校生歴史フォーラムにて優秀賞受賞。
- ④令和5年度に姉妹校のフランス国ジュールゲート国際高校が来校。令和6年度末にフランス研修を実施し、相互交流を継続。
- ⑤令和5年度より、スタインウェイピアノを活用して、プロの演奏者を招き、新入生歓迎ミニコンサートを毎年実施。



令和5年度 仏国ジュールゲート国際高校 来校



令和6年度 フランス研修
ジュールゲート国際高校生とフィールドワーク



令和5年度 新入生歓迎ピアノライブ
演奏者：リクオ氏（鴨沂高校出身のシンガーソングライター）



令和6年度 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会
水球 18歳以下女子の部 全国優勝

「伝統と進取」

京都府立鴨沂高等学校 事務長 高乗 重幸

同窓会会員のみな様、平素は本校教育推進に多大なる御支援をいただき、誠にありがとうございます。平成24年8月から鴨沂高校に事務長として勤務しております、高乗（コウジョウ）重幸と申します。まだ校舎改築のための仮校舎への移転前から、新校舎完成後の現在まで約13年の間には、教育活動や校舎改築に関連した事業等で、多大な御支援をいただきました。

新校舎を見学いただいた方々も多くおられるかとは思いますが、改めて新校舎と旧校舎の面影を併せながら、みな様が通われた当時の鴨沂高校財産の再利用や御寄附いただいた貴重な財産等を重ねて、ほんの少し御紹介いたします。

(新)



「校舎」



(旧)



(新)



「講堂」



(旧)



(新)



「図書館棟」



(旧)



(新)



(正門北側に移植)

「サクラ再利用」



(旧)



(和室・クラブBOXの間のサクラ)

(新)



「サクラ再利用」



(旧)



(新)



「本館棟階段」



(旧)



(新)



「茶室」



(旧)



これからも、「生徒全員一人ひとりに居場所がある、生徒保護者の満足度が高い」、そんな鴨沂高校であり続けていきますので、諸先輩方におかれましては、今後とも鴨沂高校生徒たちを御支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

鴨沂高校「京都文化コース」の教育活動について

京都府立鴨沂高等学校 京都文化科 教諭 島田 雄介

本校の「京都文化」に関する教育活動については平成29（2017）年9月発行の『鴨沂高校同窓会報』第11号にまとめられている。ここでは、それ以降令和7（2025）年4月現在までの主な取り組みについて、年代順に紹介したい。

1年生全員を対象に、京都の伝統文化を体験的に実

習させる「京都文化体験」は継続して行われている。茶道・華道・食文化などに加え、近年では新たな講師をお願いすることも多く、この取組みは年々深化している。また、この体験を起点にしてこれらの文化事象が「京都の伝統」として不朽のものである理由を探究的に考察すること、言い換えれば「お茶や活け花・京

料理などを“伝統”たらしめているものは何か」というテーマを歴史的に分析することもこの取組みの特徴に挙げられるだろう。こういった考察・分析を主体的に進めているのが、現3年生で10期生となる京都文化コース歴代の生徒諸君である。

あわせて、京都の歴史地理に関する知識・理解を深める本コース独自の授業や、本校に所在する資料（史料）について、博物館など研究機関と連携してそれらの意義と価値を考察・報告する取組みが実践的に進められていることも特筆される。後述のように、これらは新聞等で報道されるなど、注目度は徐々にではあるが高まっているといえよう。

平成30（2018）年度

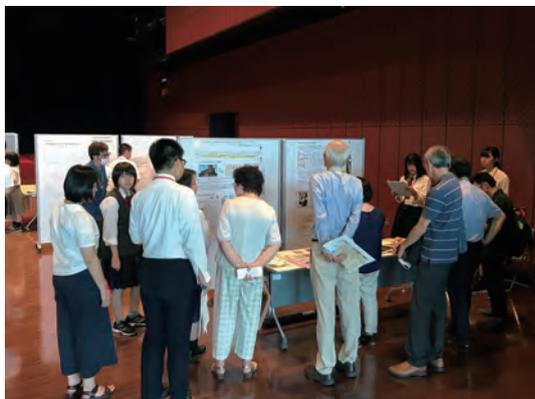
●「京都府内の学校所蔵・考古資料展2」（京都府京都文化博物館 展示期間2019年3月9日～4月21日）

この年度に完成した校舎改築の際に、本校に大量の絵葉書・古写真類が残されていることが明らかとなった。そのうち絵葉書について、どの場所がどのように写されているか（京都・日本に限らず外国のものも多い）、その画像から何が読み取れるか…などを考察したうえでデータ化する作業型学習が本格化した。本展示では、その様子が写真パネルで紹介されるとともに、生徒の手による解説文が付された絵葉書そのものが展示された。

平成31／令和元（2019）年度

●ポスターセッション「鴨沂高校とその周辺から考える歴史～モノから史料へ～」（九州国立博物館『全国高等学校歴史学フォーラム』福岡県太宰府市 開催日2019年8月4日）

全国の高校生が歴史学・考古学の研究を持ち寄って発表・報告をおこなうこのフォーラムで、本校高校周辺の歴史性のほか、先述の絵葉書、所蔵する古書籍などから考えられることをまとめ、ポスターセッションをおこなった。



令和2（2020）年度

●舞鶴引揚記念館および京都府立京都学・歴彩館との連携事業「シベリア抑留、引揚から舞鶴への帰還—ユネスコ世界の記憶（世界記憶遺産）登録5周年記

念一 連続講座『次世代へ語り継ぐ世界の記憶』（京都府立京都学・歴彩館 開催日2020年8月6日）

戦後75周年のこの年、舞鶴市でシベリア抑留からの引き揚げの歴史を伝えている中高生と、本コース生徒がそれぞれの研究成果を報告して意見を交換した。コロナ禍の中、対面での集まりが持てないというハンディはあったが、授業で学んだ京都市内に残る第二次世界大戦の痕跡を紹介するポスターを制作し、オンラインで舞鶴側に伝えることで乗り越えた。この取り組みは複数の新聞で紹介された。

●「京都府内の学校所在資料展 『京一中』『府一』『京二中』のたからもの」（京都府京都文化博物館 展示期間2020年9月19日～12月6日）

2016年以来3回目となった連携展示では、本校が所蔵する古書籍を取り上げた。それらには前身の京都第一高等女学校より古い明治時代以前のもも多く、京都における幕末の混乱をくぐりぬけて現存しているいわば「維新の生き証人」でもある。当初、本コース生徒による展示解説を考えていたのだが、コロナ禍ということもあり、古書籍に捺された「蔵書印」を分析したショートムービーを10本製作し、SNSで配信するという手法を用いた。このムービーは現在でも京都文化博物館のX（旧ツイッター）で閲覧することができる。

令和3（2021）年度

他機関との連携が困難となった状況のもと、本校コモンホール内展示室に常設的に本校資料を展示することとし、10月11日・12日の文化祭にあわせて校内向けに公開をおこなった。告知ポスターや展示解説の文章の多くは生徒が制作したものである。（この展示室は“展示替え”をおこないながら現在も開設されており、事前にご一報いただければ公開いたします。ただし学校行事等で公開できない日もあります。）



令和4（2022）年度

コロナ禍も収まりを見せつつあるこの年11月15日、本校創設150周年記念式典がロームシアター京都で開催された。その席上、本コース生徒による報告「本校創設期の生徒と先生—玉木よう・白川幸・エリザベス=ウェットン—」がおこなわれた。明治10年前後に本

校の前身に在籍・在職した、歴史上は全く無名である3名の人物を取り上げ、史料から読み取れる彼女らの事績について考察・分析した。

●「150周年記念パネル展示 鴨沂高校のある場所―御所の東の120年―」（京都市歴史資料館 展示期間2023年1月6日～22日）

この取組みは、次年度以降本格実施となる2年生「総合的な探究の時間」のプロトタイプとなるよう意識して実施された。本校周辺の歴史性および絵葉書についてのパネルを制作し、1月13日と20日には会場で生徒によるギャラリートークをおこない、一般来館者に向けて、本校が所在する場所にまつわる歴史と、所蔵資料の一端について解説した。

令和5（2023）年度

先述のコモンホール内展示室について、日本経済新聞の取材があり8月27日付け同紙日曜版に取り上げられた。

この年度を通して、本コース3年の授業「京都の産業文化」で、本校の取組みを素材とするフリーマガジン制作にあたった。「フリーマガジン ハンケイ500m」で知られる株式会社ユニオン・エーに協力を依頼し、取材・記事執筆・写真撮影・編集作業などを生徒らが主体的におこなった小冊子は、同年度末に刊行された。（このフリーマガジン『Lasting Kyoto（ラストイングキョウト）』は本校ホームページからダウンロードできます。<https://www.kyoto-be.ne.jp/ohki-hs/mt/learning/kculture/> 下部「京都文化紹介冊子『Lasting Kyoto』はこちら」をクリック）



令和6（2024）年

●「本校が所蔵する明治時代の西洋画の作者について」（奈良大学・奈良県主催『第18回全国高校生歴史フォーラム』研究報告 奈良市 開催日2024年11月23日）

本コース2年生11名（全員）で取り組んだ表記の研究が、全国86篇の応募作品中優秀賞（5作品）となり、フォーラム開催日の代表生徒4名による報告の様子は動画サイトで全国に配信された。研究内容をまとめたポスターは現在校内で展示されているが、明らかと

なった「本校が所蔵する西洋画は、従来作者とされていた英国人教師とは別の、日本人女性が描いた（それぞれ2022年に取り上げたエリザベス＝ウェットンと白川幸）」という結論は美術史研究者にも好意的・肯定的に評価されていることが、同年12月11日付け京都新聞夕刊1面に掲載された記事から読み取れる。



●「京都府内の学校所在資料展3（京都府京都文化博物館 展示期間2024年10月12日～12月1日）」

本校が所蔵する6,042枚におよぶ絵葉書の文字情報（印刷されている地名や国名、解説文など）は、生徒の手によってエクセルに入力されていた。このデータが完成したことによって、これらの絵葉書は検索可能な資料（史料）として生まれ変わったのである。その過程を記録した写真パネルや、エクセルをプリントアウト・製本したもの、そして生徒が選んだ絵葉書などが展示された。（この「鴨沂高校絵葉書目録」は本校ホームページからダウンロードできます。<https://www.kyoto-be.ne.jp/ohki-hs/mt/learning/kculture/> の下部【2024/07/19】）



一連の取組みを通して、展示を御覧いただいた同窓会員諸氏の「我が母校はすごい学校だ」「鴨沂にこんな資料があることを初めて知った」「改めて鴨沂の歴史を誇りに感じる」などといった声は、私たちにとって何よりの励みとなった。今後も引き続き、歴史都市・京都の中で鴨沂高校がどう位置付けられるのか、京都文化コースの生徒諸君とともに深めていきたいと思う。

京都鴨沂会の活動に参加しませんか

公益社団法人京都鴨沂会会長 川井秀一（鴨沂高校19期生）

鴨沂高校同窓生のみなさん；

京都鴨沂会をご存じでしょうか？

「北運」東側にある鴨沂会館を覚えておられる同窓生も多いかと思えます。

京都鴨沂会は、鴨沂会館に事務所を置き、教育・文化・芸術の振興と社会福祉の向上を目指す公益法人です。

鴨沂会館のホールや会議室は、オーケストラ、室内楽、コーラス、舞踏などの常設練習場として、また講演会、会議、伝統芸能の教室などの文化施設として賃貸利用していただいています。得られた収益と会員会費・寄附を公益目的事業に活用しています。

京都鴨沂会は、公益法人として次のような活動をしています。

- 1) 公立高校生への奨学金の給付と高校教員への教育支援助成
- 2) 茶道、華道、書道、香道、能楽などの芸術・伝統文化教室の開催
- 3) 留学生や外国人研究者・芸術家のための日本文化体験教室の開催
- 4) 生涯学習を支援するための公開講座
- 5) 『鴨沂会誌』・『鴨沂会報』の発行と保存管理

上記のように、本会は大学進学が志がありながら経済的理由により修学が困難な京都府下公立高生への奨学金給付（15人程度／年）をはじめ、日本伝統文化の育成や留学生支援による国際理解を深める事業、高齢者福祉と地域社会の活性化に貢献する事業を実施しています。詳しくは広告ページの京都鴨沂会パンフレットを参照ください。

また、学術・芸術・文芸・環境・医療・福祉に関する公開講座を開催して、地域住民の生涯学習支援や文化振興にも寄与しています。たとえば、令和6・7年度公開講座を記すと、以下のとおりです。

令和6年5月26日 「能の歴史を知る」惣明貞助氏（シテ方金剛流能楽師）

令和6年12月7日 「百歳元気に生きれる`知識のワクチン、一世界を健診してわかった`食べ方上手。」家森幸男氏（京都大学名誉教授）

令和7年5月25日 「仁徳天皇陵—倭国の玄関・堺」徳田誠志氏（関西大学客員教授・前宮内庁陵墓調査官）

なお、令和7年10月5日14：30-16：00には、森本幸裕氏（京都大学名誉教授）の講座「京都と名園—地球環境危機対応への示唆」が鴨沂会館にて開催されます。是非一度ご参加ください。

京都鴨沂会は、府一、さらに鴨沂高校につながる京都府立高等女学校の同窓会として明治20（1887）年に発足しました。明治42（1909）年の社団法人認可以来、百年を超える歴史がありますが、設立当初より女子教育の振興、福祉の向上と地域社会の健全な発展を志し、公共の利益に寄与することを目的にしてきました。

このような歴史的経緯もあり、京都鴨沂会は主に府一・鴨沂高の同窓生で運営されています。会員の高齢化と減少が大きな課題であり、会員を募集しています。「公益活動に参加してみたい」と思う同窓生は、是非鴨沂会に入会ください。会員になるには、電話（075）231-1001、またはFax.(075)241-2354でお知らせいただくか、鴨沂会ホームページ www.ohki-kai.org の「入会・会費」にある、Webフォームに必要事項を記載のうえ、直接お申し込みいただけます。なお、入会金は500円、年会費は個人2,000円、賛助（団体）10,000円です。

鴨沂高校同窓生の皆さんの「公益社団法人京都鴨沂会」への参加をお待ちしています。

以上。

鴨沂高校同窓会の皆様への御挨拶

関東支部役員体制 鴨沂高校同窓会関東支部支部長 加藤 啓（19期）
事務局長 吉川 能信（19期）
会 計 西村 淳子（22期）

鴨沂高校同窓会関東支部の19期加藤啓です。2024年10月5日東京ガーデンパレスホテルにて開催いたしました第11回鴨沂高校同窓会関東支部総会にて支部長16

期生田捻雄様より再度の支部長登板を懇請されお引き受けいたしました。2010年以降ずっと事務局長を担ってくれている19期吉川能信君と共に他期の幹事様のご

協力を仰ぎながら今後の鴨沂高校同窓会関東支部を承継いたします。

さて昨年の同窓会関東支部総会は、58名（内来賓4名）の出席にて盛会に催すことが出来ました。今回は冒頭若さに満ちた72期の木村奎太朗（横浜市立大学国際商学部3年生）君73期の井上舞（早稲田大学スポーツ科学部2年生）さんがスピーチをしてくださいました。木村君は卒業後京都に戻り「祖父母・両親が苦勞して成功させた家業」を継ぐ「決意」を表明しました。井上さんは14期卒である祖父に親しみを持って接している事や両親とも鴨沂出身という母校愛あふれるご家庭で育ったという事、鴨沂高校水球部の経験を活かし大学でも活躍している様子が良く理解できるスピーチでした。このお二人に対し出席者からは「感動と称賛」の拍手がおくられました。そして中国上海留学中の72期池原夏樹（早稲田大学商学部3年生）君は「希望に満ちた抱負」を長文のメッセージ（当日配布）にしてくださいました（一部協賛金謝意文より引用スピーチ者学

年は当時）。

72期のお二人は、彼らが高校2年生当時修学旅行で東京を来訪した際、関東支部で企画した交流会を経験した学年であり、彼らのような関東に進学や就職した卒業生とのかかわりを今後も大事にしたいと思います。現在関東圏在住で把握している同窓生は約650名（第1回総会より半減）ですが、本部のご協力を得ながら名簿を充実して参ります。関東支部では3年毎に開催していた総会を8期や11期の幹事様から2年毎にしてほしいという意見が出され了承されました。そこで来年（2026年）が開催年となるため、今秋の幹事会から準備に着手する所存です。

私の住む茨城つくばでは、周りの水田に苗が植えられ夜には月あかりが水面を照らし季節がめぐるのを実感できます。私は同窓会でお元気な先輩方にお目にかかる事を念じ、若い期の同窓生の参加を促し今後も同窓会運営に努力してまいります。

2025年5月吉日

上村淳之先生の思い出

第21期 廣瀬ちづる

昨年11月1日、鳥をいつくしみ、たくさんの花鳥画を描かれた日本画家の上村敦之先生がご逝去なさいました。

先生は、鴨沂高校の第4期生で、同窓会の2代目の会長を務められた方です。そんな御縁で、鴨沂高校同窓会の改築記念事業の一環として平成30年に新調された講堂の素晴らしい緞帳（引幕）の原画を描いていただいています。私は、たまたま京都市美術館（現京都市京セラ美術館）や京都芸術センター、京都市立芸術大学などに勤務し、上村先生の知遇を得ていたことから、同窓会長や校長先生とともに原画依頼の場に同行させていただきました。先生は、同窓会からの依頼をすぐにお引き受けくださいました。その時には、四季の花と鳥を配するその絵の構想をすでに脳裏に描いておられるようでした。後日、先生は文化勲章を受章され、祖母松園・父松篁画伯に続いて三代にわたる受章が大きな話題となりましたが、原画を提供していただいた緞帳も鴨沂高校の宝物として、また注目されたのではないのでしょうか。

上村先生は、2005（平成17）年3月まで京都市立芸術大学で教鞭をとられ、美術学部長や副学長を歴任された後、2005（平成17）年からは京都市学校歴史博物館の館長を務められました。学校歴史博物館では、ほぼ毎月のように館長談話室が開催されていましたが、そこでは絵画や芸術のお話に加えて時々話題をチク

りと批評されたりもして、毎回それを楽しみに通ってこられる固定的なファンの方もいらっしゃいました。談話室の終了後に、館長室でまたお話を伺うこともありましたが、まじめな顔で冗談をおっしゃって、真に受けた私を面白がられるようなこともありました。私の中での上村先生は、制作中の厳しいお姿ではなく、私たちときさくに歓談される場面でのお姿ばかりです。

私は先生がご退任後の芸大に勤務したのですが、その間ずっと美術学部の同窓会長を務めておられ、同窓生の美術家の方々がこぞって出品して下さった東日本大震災支援のチャリティー作品展などのイベントでたいへんお世話になりました。現在、京都市立芸術大学は京都駅近くに移転していますが、移転前の洛西キャンパス時代の芸大祭では、毎年、同窓生が集う「象の店」が開かれ、マスターは青い法被を着た上村先生。芸大祭の終わる時間には、店に集まった人々と二次会



へ向かわれるのが恒例でした。

鳥をこよなく愛された先生は、人も愛しておられました。お話される時は菌に衣着せぬ感じに見せながら、実は人一倍周りの人々に温かい目を向けておられたように思えます。

これまでいろいろとお世話になりましたこと、心から感謝申し上げたいと思います。



京都府立第一高等女学校・京都府立鴨沂高等学校 開校150周年記念式典開会の辞

実行委員会 委員長 村山 敦

(令和4年11月15日 於：ロームシアター京都メインホール)

記念事業実行委員長をお引き受けしました鴨沂高校第8期、昭和31年、1956年卒業生の村山です。

本日は、京都府西脇知事、前川教育長のご出席も得て、鴨沂高校の卒業生、在校生、教職員の皆様と一緒にこの式典を開けますことをたいへん嬉しく思います。

私たち、第8期の有志の人が、150周年を祝いたいと言い出してから、やや紆余曲折もありましたが、最終的には、同窓会の組織的なご支援と松井校長先生のリーダーシップ、そして多数の卒業生のかたがたの力強いご協力を得て、本日に至りました。心から御礼を申し上げます。

1922年(明治5年)、今から150年前、日本における女子高等教育機関の先駆けとして開かれた『新英学校および女紅場』という名の女性の学校は、京都の社会環境を風土に育てられ、日本最高レベルの府立第一高等女学校に発展し、多くの人材を生み出しました。そ

して明治維新に次ぐ歴史の転換点となった第2次世界大戦の敗戦を機に、1947年、今日に続く六三三制による新制高校として、鴨沂高等学校に生まれ変わりました。その中心となった府一と一中の生徒と先生は、のちに東の日比谷、西の鴨沂とも呼ばれた自由で自主性に富んだ校風を作り上げ、各方面に多彩な同窓生を送ってきました。偏差値などという言葉もなかった私たちの世代ですが、今、在校生に伝えたい最も大切な伝統は、あえて有名大学への合格率などではなく、個性を発揮し、ひたむきに、社会や文化やスポーツにかかわっていかうとしている仲間がいっぱいいる学校であることです。在校生、若い世代の卒業生の手で、今までの150年につながる素晴らしい新たな鴨沂の歴史が綴られてゆくことを、心から期待し、わたくしの開会の辞といたします。最後になりましたが、本日は参加いただき、まことにありがとうございました。

学 年 報 告

第4期 高橋 忠 (舞鶴市在住)

私たち4期生は、14クラス700人が卒業しました。人生100年時代と言われていますが、私の5組では、心身共に元気な人は一割になってしまいました。

鴨沂高校同窓会が、益々発展されますようお祈りします。

第11期 戸川 隆博 「33会さんさん会から辰巳会タツミ会へ」

私たち第11期生は昭和33年度卒業生にあたります。同期会を卒業年度から「33会」と命名し当初はオリンピック年に再会をしていましたが、開催年度が変わって2年ごとの開催がコロナ禍まで継続し毎会130名程の参加が米国や仏国からもありました。米国からは同期会に合わせて帰国し過年度のクラス会もされていました。コロナ後令和5年に最後の同期会を110名の参加の中で閉会となりました。まだまだ元気な同期は連絡の取れる有志で京都と東京で生まれ干支から「辰巳会」と会名を変えて、早速に京都は2回の開催し60余名、東京は9月に初回を終えて秋の東京、春の京都に同期会は続きます。この活動をご存じない仲間は同期繋がりで何時からでも顔出し歓迎です。今年は卒業以来初参加の浦島太郎さんと66年ぶり再会もありました。

第12期 木村 早苗 (同窓会世話役)

12期生(13クラス)は卒業後65年、卒業生同士の交流は下記の様々なグループが絶えることなく続けています。健康には皆問題を抱えていますが、楽しんでお世話をしています。鴨友会(運動クラブを母体とした懇親会)第19回2024年6月約20名、山城会(近鉄沿線の山城地域中心に発足し、今は幅広く懇親会)第19回2024年12月約30名、東京地区在住の同窓会、会食、山登りや散策をする友人同士少人数グループ等です。

全体の同窓会は第14回を2023年5月にホテルオークラ京都において110名余りが集まりました。80歳を超えた区切りの最後の同窓会とすべく、代表幹事として開催しましたが、当日会場での惜しむ声に押されて、当初の方針を撤回しました。今までは、各クラス各2名の幹事を選んでいましたが、有志

の世話役約十数名で運営する事になり、2026年の3月24日、京都駅八条口の都ホテルにて開催することになりました。

第14期 山本 早苗 「傘寿を終えて」

今年も早5月。自然はすっかり新緑となり、目に優しい季節となりました。昭和34年入学の私達14期生は、世の中の安保反対闘争で講堂封鎖されており入学式がなくいきなり教室に入った事を思い出します。その始りが正に鴨沂の生徒の自由を知った出来事だったように思います。卒業迄の3年間、その姿は、いろいろな事にあらわれていた年月だった様に思います。卒業後に63年が過ぎ私達は令和5年傘寿を終え同期同窓会を終了と決めていました。この時の参加者81名が、もう1回やろうとの声があり、今年10月に実行することになりました。鴨沂時代に共有した仲間達に会いたい思い、すぐに昔にもどる心、良し悪しの出来事もふっとび笑顔につながっている友人達です。私が理事を引き受けて15年は過ぎたでしょうか。枯れ木も山のにぎわいと思い長く御一緒した先輩、若い元気な後輩達にまじり楽しく参加させていただいています。今後共、よろしくお願い申し上げます。

令和7年5月記

第19期 鈴木 正穂 (元同窓会長) 「喜寿を迎えて、19期会は幕を下ろしました。」

われらが鴨沂を卒業して60年近く。昭和は遠くになりけり。団塊の世代、14クラスの時代。19期会は、1967年(昭和42年)の卒業。今年はなんと77歳、喜寿ですよ！いまや後期高齢者の仲間入り、黄昏時。

19期会が発足したのは1983年、今は亡き井口悟さん、その後は川本修平さんら幹事のお世話で、コロナ禍の一時期を覗いて毎年開催されてきました。



第12期卒業生の第19回山城会参加者の集合写真
(2024年12月さざんか亭六角店)

社会人になって、年齢を重ねても友と再会し、青春時代を振り返り、近況を語り、盃を交わす場になりました。発行された会報「鴨の河原辺」には同窓生の近況を綴ったメッセージが掲載されてきた。最終号は56号です！

しかし、後期高齢者になり、幹事の健康上の問題もあり、昨年2024年5月に御所の西のホテルで84人が集い、第41回が最後の総会となりました。京都新聞は「旧交交歓」欄にも紹介されました。

ながらく幹事を務めてくれたみなさんに乾杯！ありがとう！解散は寂しいけれど、また会える日まで！傘寿（80歳）を記念してまた集まりたいですね。早く旅立った友人らを偲びつつ、元気で生きましょう。

第21期 辻 義博 「最後の同窓会を終へて」

21期卒業生の学年同窓会は、40年前、第1回が開催されました。出席者は260名。卒業後17年目の再会でした。なつかしさに時を忘れ、話しに花が咲きました。

その後は2年に1回のペースで、開催場所を変え、料理内容も出席者の好みを考え（年を重ねるごとに好みが変わる）、工夫がみられました。同窓会の写真が毎回送られて来ました。

鴨沂高校校舎の改築の折には、旧校舎をたずね、思い出話などをビデオ化し、全員に配布されました。

幹事の皆様の御苦勞が感じられます。

そして2023年9月、最後の同窓会が開催されました。

（私のケイタイには出席者全員の写真が残されています）

今年、2025年、もう同窓会は開催されません。

何かさみしい思いを感じます。

後輩の卒業生の皆様には、同窓会を続けて行かれる事、開催されていない卒業生は、ぜひ、開催されます事を願っております。又、全体の鴨沂高校同窓会にも、さそい合せて出席されてはいかがでしょうか。

第22期 植松 雅博 「オリンピックイヤー同窓会」

22期同窓会は、4年に一度、オリンピックイヤーに開催し、次回で、第10回を迎えることになりました。

最初は、100名以上の参加者も、回を重ねる毎に物故者が増え、90名を割ってしまう現状が続いています。

幹事（幹事長以下10名）は、開催した幹事が、次回幹事を指名し、指名を受けた者は断れません。

同窓会は、元KBSアナウンサーの岩崎裕美が、ノーギャラで司会を務め、画像アルバムは、吉川浄・野間寛治達が受け持ち、ライン等で閲覧が可能です。



この同窓会報の場を借りて、「鴨沂温泉部」「京小町踊り子隊」等を紹介させて頂きましたが、今回も22期生の活躍を紹介させて頂きたい。

高橋君が、ゼネラルマネージャーとして、リニューアルに携わった「京セラ美術館」は、文化首都・京都における新たな美の殿堂として、近代以降の京都の美術や最先端の現代アート等を発信しています。

河原林さんの嫁ぎ先の「櫻谷文庫」は、明治から大正昭和にかけて活躍・注目された日本画家木島櫻谷の遺作、習作や写生帖、絵画等1万点以上を収蔵し、建物は京都市指定有形文化財に指定されています。

同窓生の皆様、ぜひお立ち寄りください。



リニューアルした「京セラ美術館」



「櫻谷（おうこく）文庫」

第25期 南 寛 「古希同窓会」

昨年6月、「古希同窓会、どうなってんのん」と突然のeメール。有無を言わさぬ語気に押され、還暦同窓会で世話になったメンバーに連絡し、6人のお人よしが集まりました。

企画にあたり、①全員が参加・交流でき輪に入れない人をつくらない、②観て聴いて楽しむよりじっくり話せることに留意しました。そこで、一次会と二次会を同一会場にし、両方又は片方だけの参加も可能にしました。これで話し足りない、どの二次会に参加したら良いか分からないという前回の問題は解消できたと思います。一番難しいのが配席です。テーブルは男女数に配慮した抽選で、テーブル内での席は自由にしました。話の輪に入れない人がいないよう、懇談の最初に各テーブルでアイスブレイクとして自己紹介タイムを設け、事前にお願した盛り上げ役を各テーブルに入ってもらいました。

7月5日の同窓会には一次会88人、二次会63人の参加がありました。二次会でも話が尽きず、三次会、四次会まで参加したパワフル老人集団もいたとか。次回が怖いです。



第30期
双見 徳秀
「5年ごとの学年同窓会」

校舎建て替えに際し「学びし校舎」をこの目に焼き付けるべく、2013（平成25）年に久しぶりに「校舎見学会並びに学年同窓会」を開催し、次回は60歳の還暦に開催を約束して以来、5年ごとに開催しております。65歳の今回も、昨年11月2日に「ホテルオークラ京都」にて、生徒113名、先生3名（原田先生・石黒先生・湯山先生）の参加にて大いに盛り上がりました。開会の挨拶・先生の挨拶・乾杯・ダンスにゲームといつも同じ流れですが本当に2時間がアツと言う間に流れ、次回5年後の古希での再会を願い中締めに至りました。

今回初の試みとして「同窓会のグループライン」を作成しました。

次回の開催の案内、出欠確認の為だけではなく、30期生の親睦を深めるラインであればと願い込め、現在126名がラインで繋がっています。今回の同窓会で話し足りなかった級友とのクラス会を企画する事を呼びかけたところ、後日3年8組：湯山ちいほ学級が名乗りを上げ今年、10月4日に先陣を切りクラス会が開催されます。

他、ラインには幹事団の花見遠足や有志の比叡山登山等々の報告がなされており今後も、30期生の親睦を深めるラインとなる事を願っております。我々第30期同窓会は、一番仲の良い「学年同窓会」を目指しております。



第39期
宮下 貴行

私たちの同窓会は、2015年より3年間隔で開催してきました。初回は来賓3名を含め、66名が集いました。残念ながらコロナを境に不定期となっています。

地方在住者の参加を考え帰省が多い年末に市内で開催するなどの工夫をしています。また、幹事業務の簡素化と運営費用をおさえるため、メールのみの案内としています。

嬉しいことに同窓会を期に少人数によるスピノフ会が市内や都内で頻繁に開催されるようになりました。「鴨沂」の名のもとに集まれることに、皆、誇りと喜びを感じていると思います。参加を希望される方は、ohki1987@gmail.com（代表幹事久武克年）までご連絡ください。



第44期
山内 隆男（野球部出身）
「33年ぶりの再会」

昭和48年・49年生まれの私たちは44期生。当時の公立高校は通学圏内で選抜があり、I類（普通科）は「バス停方式」で選抜されていた。鴨沂高校は京都の中心部にあるにも関わらず、私の住んでいる山科がバス停方式で鴨沂を選抜しており、山科から通う生徒数は半分を締めていたと記憶している。「山科組」と「市内組」1992年に卒業してから同窓会が1度も行われなかったのは、生活圏が異なる生徒が大きく2つに分かれていたからかもしれないと今更ながら思う。事が動くのは突然で、陸上部を中心とした同級生数名の飲み会が行われ、そこで全体の同窓会の話が持ち上がったのが昨年11月。野球部出身の私がお手伝いをさせていただくことになったが卒業してから33年ぶりの再会は楽しみでしかなかった。卒業アルバムに住所が載っていた時代でしたが、往復はがきでお知らせする時間はなく、SNSで拡散する方法で参加者を募り、令和7年2月22日からすま京都ホテルにて、92年卒・鴨沂高校同窓会を行うことができました。参加人数は40名ほどでしたが、大人になった私たちが童心に戻れる素敵な時間を共有できたこと幸せに思います。改めて鴨沂高校出身で良かったと思え、良き友人に囲まれた学校生活だったことを報告させていただきます。ありがとうございました。



第54期
石村 元
「初めての同窓会～40歳の節目を迎えて～」

私たちは、令和6年12月29日に初めての同窓会を開催しました。高校を卒業して20年が経ち、仕事や子育てなど一定落ち着いた頃ではと企画を始めました。昔と違い、私たちの卒業アルバムには住所の記載がありません。全ての同期生に招待状を送るための手立てに悩みました。個人情報管理についても気になり、同窓会を仲介してくれる企業に依頼し実施することができました。

当日は、37名の同期生と担任を含む6名の先生にご参加いただきました。先生に当時の思い出話などを披露していただいたり、持参して下さった当時の手書きのクラスだよりや研修旅行のしおり、卒業アルバムなどを見ながら話に花が咲きました。

久しぶりの再会に懐かしい話が尽きず、盛況のままに終わることができました。二次会にも多くの人が参加し、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

これを契機として同窓生のつながりが活発になればと考えております。また、多くの同期生が集まれる機会へ繋がっていくことを願っています。

2024（令和6）年3月卒：76期卒業生 報告

藤井 楓（水泳部水球） 「卒業して思うこと」

中学校3年生の夏、オープンキャンパスで水泳部を見学し、室内温水という恵まれた環境で「水球をしてみたい!」と思い鴨沂高校に入学を決めました。

入学後は部活動に打ち込む日々でした。高校から競技を始めた私にとって毎日の練習は大変厳しく、何度も辞めたいと思うことがありました。時には、ぶつかり合いながらも仲間とともに支え合ってきたことで、目標を見失わず、練習に向き合うことができました。また、部活動以外にも文化祭や体育祭などの学校行事を通して仲間と協力し合う大切さを学ぶことができました。私のクラスは42名中、男子4名と偏ったクラスでした。そのため、文化祭や体育祭の学年種目では不利になるのではないかと思いましたが、全員で試行錯誤し、声を掛け合うことで男女の差を感じることはありませんでした。クラスで楽しく取り組めたことも良い思い出となっています。部活動や日々の学校生活を通して、どんなに辛くても目標や自分自身と向き合い諦めず努力することの大切さ、コミュニケーション、協力することの大切さについて学ぶことができました。高校生活で学んだことは現在の大学生活に生かされており、今後の人生においても大きな糧となると思います。

大学に入学して数ヶ月経ち、高校生活以上に自分自身で考え、行動する力が重要になると感じています。京都を離れ、環境が大きく変化しました。慣れないことが多々ありますが、クラブ活動や日々の生活では高校生活で学んだコミュニケーションや仲間と協力することを大切に、目標をもって過ごすよう心掛けています。このように、私は鴨沂高校で充実した3年間を過ごし、たくさんのことを学ぶことができました。すべて鴨沂高校だったからできたことだと思っています。一人でも多くの生徒が鴨沂高校で良かったと思えるような学校により進化するよう楽しみにしています。

諫本 桃花（卒業生代表） 「令和7年2月28日 卒業式答辞」

張り詰めた冬の寒さに春の兆しが見え始め、伸びやかな命の息吹を感じる季節となりました。

本日は、私たちのためにこのような素晴らしい式を挙げていただき、ありがとうございます。またご多忙の中、ご出席くださいました御来賓の皆様、校長先生をはじめとする先生方、保護者の皆様に卒業生一同、心より御礼申し上げます。

思い返せばこの3年間は、かつてない速さで過ぎ去っていったと思います。2022年春、真新しい制服に身を包み、入学式と卒業式にのみ開く、特別な門をくぐり抜け、私たちは入学しました。そして今日、たくさんの思い出を抱え同じ門をくぐり、卒業します。

入学当初は、小テストの量や教科の難易度が中学校と比にならず、とても苦労しました。定期テストでは日が昇るまで勉強したこともあります。友達とほやきながら勉強したのも、今となっては良い思い出です。1年生での文化祭や体育祭では、規模の大きさに驚きました。漫画で目にするようなキラキラした青春を目の当たりにし、とても心が躍りました。自分は今、青春の真っ只中にいるのだと、実感した瞬間でした。

2年生の一番の思い出といえば、やはり北海道への研修旅行です。飛行機に乗った瞬間からワクワクがおさまらず、初めて見る景色を前に、時の経つのを忘れるほど楽しむことができました。また、部活動でも徐々に私たちが主役の代となりました。部活動は、私にとってこの3年間のハイライトです。毎日、日が暮れるまで練習し、何度も挫折を経験しながら、それでも走り続けました。最初は憧れだけで入った部活動に、人としての成長を確かに感じるすることができ

ました。私はここで報われる努力も、報われない苦難も経験しました。自分の不出来に苛まれるあまり、歩みを止めてしまうこともありましたが、それでも、引っ張り上げてくれる仲間がいたから、また走り始めることができました。

そして迎えた3年生、部活動を引退すると受験一色の毎日になりました。夏休みは朝早くから学校に行き、夜遅くに帰ってくるという日々を繰り返しました。思うように成績が伸びず、体力的にも精神的にも厳しい時期もありました。けれども、一日一日の友達と喋る休憩時間、そして何よりも文化祭や体育祭といった行事に取り組んだ時間が暗い日々を照らす光でした。文化祭での演劇発表では、それぞれのクラスが自分たちの舞台に真剣に向き合いました。ひとつひとつのシーンにこだわり、放課後も残って練習しました。本番直前にクラスのみんなで円陣を組んだ時、心が一つになったのを感じました。また、体育祭は、3年間最後の行事ということもあり、より一層熱の入ったものとなりました。学年を問わず同じ色のチームを応援し、最初から最後まで、声援が青空に響き渡り、勝敗の結果にかかわらず、悔いなく終わることができました。

振り返ると、私たちは充実した日々を送ることができたと思います。教室での授業、学校全体での行事、部活動での大会、そして進路選択。ここでは多くの方々に支えられて、今日という日にたどり着くことができました。一人一人に向き合い、気遣い励まし続けてくださった先生。気持ちよく学ぶことができるように環境を整えてくださった職員の皆様。毎日、安心して登校することができたのは皆さんがいてくれたおかげです。本当にありがとうございました。

それから、私たちのことをずっと近くで見守ってくれた家族。18年間、やりたいことに挑戦させてくれたおかげで、色んな景色を見ることができました。どんな時でも、私たちの居場所であってくれました。お父さん、お母さん、私は入学した時と比べ、成長できたのでしょうか。もし、そう映っているのなら、あなたの子としてこれ以上ない幸せです。いつもは恥ずかしくて言えなくても、心の中では本当に感謝しています。これまで育ててくれてありがとうございました。

そして3年生の皆さん。初めて会ったのがつい昨日のように思えますが、この3年間、本当にあっという間でしたね。人生においてかけがえのない時間を皆さんと一緒に過ごすことができました。今は、実感が湧かないけれども、時が経つにつれて今までの日々が宝物であると気づくでしょう。今日までの日々を彩ってくれて、本当にありがとうございます。おかげで素晴らしい思い出を抱え、卒業することができます。これからの道は違っても、私たちの青春はここにありま。辛い時はここでの日々を思い出して、それぞれの道で頑張ってください。

ここで、私の好きなアーティストである米津玄師さんの『BOW AND ARROW』という曲の一節を紹介します。「君の苦悩は君が自分で選んだ未来だ、そして掴んだあの煌めきも全て君のものだ。」「今君は決して風に流れない矢になって」。私たちと家族や先生方との関係もまさに bow and arrow, 弓と矢だと思います。弓と矢は互いがあるからこそ意味をなします。そして矢は、放たれてこそ力を発揮します。皆さんが親や先生という弓として今まで引き絞ってくださいました。そして今日、その手が離され、私たちは矢として放たれます。放たれた矢は、戻ることはありません。途中で止まることもできません。進むしかないのです。だから、見ていてください。私たちはもう、自分たちで自分たちの未来を射とめることができます。皆さんのおかげでこの世の中を、荒波に流されることなく進んで行けるのです。そして、今度は私たちが誰かの弓となれるよう、進んでいきます。

最後になりましたが、学校生活を支えてくださった全ての方々に改めて御礼申し上げますとともに、鴨沂高校の更なる発展を願って答辞の言葉とさせていただきます。

「世界の未舗装道路を住民と造る」

講師：木村 亮 氏 (30期卒) 同窓会会長 京都大学名誉教授
ボンドエンジニアリング株式会社専務取締役 (講演時、現代表取締役)

在校1年生に向けた進路講演会が木村同窓会会長より行われました。タイトルは「世界の未舗装道路を住民とともに直す」。

第四錦林小学校から近衛中学を経て鴨沂高校に入学し、自宅の裏の京都大学に進学しました。ぬるま湯の鴨沂温泉と言われていた時代に現役で工学部土木学科に入学し、高校2年生からの夢であった「バイトをしまくって遊びまわる！」夢を実現させました。自転車で5万キロを走りました。海外に行きたい人は大学の先生職はお薦めです。自分のお金で行く必要なし、287回、87か国海外に出向き、うちアフリカは93回です。自分に限らず、講演会の内容とはすべて自慢話です。それを当事者が話すから心に響くのです。アフリカ大好きな土木学者が「土木技術で貧困削減を可能にする方法」を考えたら、住民と一緒に道を直すことになりました。土木の原点は「人の暮らしを守り豊かにすること、アフリカの国々でニーズを把握して具体的なやり方を考える、これが理科系の人間がやるべきことです。今日の話は「高校1年生の君たちには無限の可能性がある」ということで、他は忘れても結構です。

アフリカでは23か国を訪ねました。今なら紛争地域で中東から広まったイスラム勢力に拉致されるところもあります。大学を1年休学して、サハラ砂漠を自転車で縦断しました。自転車仲間に変人の友人が二人います。一人は徒歩で北極圏に到達し、一人は犬橇で南極点に到達しました。自分も大学の教員にならずに冒険家になっていてもおかしくなかったです。サハラでは地べたで寝ていたら朝になったらラクダが舌を出して舐めに来ている、ラクダは息が臭くて怖い顔をしています。

1993年にケニアの大学で講義することになりました。国際協力や国際開発をやりたい人もいます。どんなものでも食えて、誰とでもしゃべれて、どこでも眠れるなら、世界中が自分のフィールドになります。毎朝、靴の中に入ってるサソリを払い落としたり、カ

エルや毛虫、サルなんかも食べます。青い空、白い雲、赤い土、緑の木、人の笑顔を見るのが楽しい人には向いています。皆さんには無限の可能性があるので行きたい人は是非どうぞ、行きたくない人は無理せずに。ケニアでは日本の土木技術の講釈を垂れても無用の長物、5年間通って役立つことを考えました。それが農道の整備です。これをローコスト、ローテク、ローカルのレイバーベースでやる。道路の延長距離も舗装率も日本と全く違います。70年前の日本です。市場や学校や病院と地域を結ぶ道路を雨季の泥濘化から守ります。土嚢に土を詰めて20回叩く、それを道路の陥没に2段に積んで上から5センチ土を被せ締固める。これで雨季にも車が通れます。安価で人力で現地調達できる材料で、自分たちでできると理解してもらう。農産物を換金するための輸送の確保が出来、貧困の原因の解決策となります。現金収入が生まれれば人を雇い、子供が農業労働から解放され、学校に行く機会が生まれます。小さな建設会社がスラムから立ち上がり今では国から工事を受注できています。NPO法人「道普請人」では31か国、240Kmの道路を直し、23,400人に道の直し方を教えました。規模は小さくても長くサポートを続けます。皆さんの中で夏休みか冬休みに現場に参加したい方があれば行ってください。飛行機代くらいは用意がありますが男女は問いません。

30年前に作ったスライドでの国際協力の活動推進の重要課題は①観察力(調べる力)②単純化(複雑なことを簡単に考えること)③情報収集④言葉の壁でした。今日では③はビッグデータと呼ばれ情報は一般化しています。④もスマホの翻訳機能によって解決しています。地球温暖化や少子化など、皆さんがこれからの困難に立ち向かうには①観察力と②単純化の課題を打ち破っていただきたいです。年寄りには新しいことを考えられませんから「若い力」に発想の大転換を期待します。

10年前に当時の安倍首相がエチオピアの首都アジス

アベバで「若者に明るい未来を～一人一人を良くする
アフリカ外交～」という演説をしました。アフリカの
未来は自らの力で困難を克服する。無限の可能性を
持った意欲のある若者たちにかかっている。アフリカ
では若者は増え続けており、若者に明るい未来を示せ
るならアフリカの未来も明るくなる。これは私の考え

と行動を外務省が安部首相の演説にしてくれました。
無限の可能性をもった若者—これは日本も同じです。

自らの頭と行動力でこれからの問題を解決していく
こと、在校生の皆さんが卒業生として頑張っていてやっ
ていただければ嬉しく思います。



在校生向け講演会の記録

令和6年2月10日 於：鴨沂高校3階講堂

「仲間を信じて、ラグビーが教えてくれたこと」

講師：村上 晃一 氏 (35期卒)
ラグビージャーナリスト

最初に同窓会より講師の紹介がありました。鴨沂高
校時代のラグビー部でのキャプテンとしての活躍、大
学時代の関西リーグ優勝や関西学生選抜代表の経験、
「ラグビーマガジン」編集長を経て、今日の解説者や
作家としての活躍が紹介されました。

講演は、村上氏がラグビージャーナリストを目指し
た経緯から始まりました。昨年のワールドカップの現
地での盛り上がりや世界の強豪国の趨勢、日本代表の

活躍への冷静な評価と続きました。意外と知られてい
ないラグビー校での競技発祥の本当の歴史と、そこで
行われたスポーツ教育の魁、リーダーシップをはぐく
むその目標の話がありました。選手やキャプテンにブ
レー選択をゆだねる自主性の高いラグビー競技の特徴、
世界的に30年前までプロ選手がいなかった経緯も話さ
れました。

スポーツ教育の目標とは、本性をむき出しにする戦

いの中でも正々堂々と戦えるよう感情のコントロールができるようになること、責任、信頼、尊重という精神は一生懸命競技に取り組むことで自然に理解され、身につくことが話されました。具体的には、著作でも紹介された、弱視の選手が3年間の高校ラグビーを通して信頼し、信頼されることを得た経験、コロナ禍の2020年の高校ラグビー選手権準決勝の試合での18分間のロスタイムに現れたノーサイドの試合状況が話されました。ちなみにノーサイドの精神的な意味付けは日本独自のものだそうです。

ラグビー憲章とは、品位（スポーツマンとしての価値の向上を目指す）、情熱、結束（国籍や民族で差別を行わない）、規律（グラウンドと普段の生活を気配りでつなげる）、尊重（自分とはもかく相手の立場を考える）であり、ラグビー選手がおのずと優れているからではなく、不完全であるからこそ目指すべき目標であると教わりました。

現役在校生からの質疑では、「良いチーム造りのためには?」「試合でミスをした時の切り替え方」「良い

プレーをするための身体の使い方と訓練方法」「キャプテンに求められるもの」「基本と応用のどちらが大切か?」の質問が続き、すべてに具体的な応答がありました。それぞれの質問者からのお礼には、今回の講演機会が、「話す考えの整理にもなるし、今の高校生の様子もわかるし良い機会です。」と講師からも返礼がありました。

最後は、学校で勉強する意味についての話でした。好きな仕事を見つけ、それを目指せるように、広い意味でなんらかの帰属意識を持てるためにとのことでした。勉強はいつからでもできる、考えていることを文章に書き、話せるようになるための基本だと、実体験からの話でした。高校時代の部活の友達は、後から笑いあって楽しめるエピソードを共有できる大切な財産との話が加えられました。

土曜日の午前中、140名超の在校生が聴講し、また講師の部活時代のマネージャーや愉快的後輩諸氏も講演に駆け付けました。

（記録：末川）



事務局 だより

京都府立鴨沂高等学校国際交流基金趣意書

鴨沂高校校同窓会の皆様におかれましては日々ご健勝のこととお慶び申し上げます。同窓会では、平成30年の秋に「新校舎落成記念事業」を実施いたしました。その際に同窓生の皆様から頂いた寄付金の一部により、在校生の国際研修の助成基金の設立を行いました。鴨沂高校では在校生が隔年でフランス南部モンペリエ市のジュールゲート国際高校に文化交流のための研修旅行に出向きます。その旅費の一部を同窓会の助成基金により支援してきました。

基金設立から6年が経ち、本年度の支援を終えたところで、一旦基金が底をつく状況となります。鴨沂高校では他の支援財団による助成金事業にも申請を行い、国際交流事業の継続に尽力しています。しかし昨今の物価上昇、円安動向を受け、国際交流参加のための生徒ならびに保護者の負担が倍増している状況があります。今後も在校生が国際交流の体験を得て、文化の交流や発信のためのコミュニケーション能力を身に付け、自己実現に繋がる経験を積む機会を応援したいと願います。

来年度以降も、在校生の国際研修の助成を継続するために「京都府立鴨沂高等学校国際交流基金」を開設しました。基金を広く卒業生から集めることに、皆様の賛同を頂ければとお願いいたします。母校での思い出に愛着を持ち、在校生を応援する皆様のご協力をお願いいたします。

京都府立鴨沂高等学校国際交流基金委員会
 京都府立鴨沂高等学校同窓会 会長 木村 亮
 理事長 末川 協
 事務局長 福田 智子

募金要項

1. 募金目標総額 600万円
 2. 募金対象者 同窓会員並びに国際交流支援事業に賛同いただける方々
 3. 募金の金額 1口 3000円
 4. お支払方法 以下の金融機関に振込手続きをお願いいたします。
- 京都銀行 府庁前支店 金融機関番号 0158-122 普通預金 4324979
 ○京都信用金庫 丸太町支店 金融機関番号 1610-058 普通預金 3030343
 口座名義 京都府立鴨沂高等学校国際交流基金

京都府立鴨沂高等学校同窓会 理事等役員名簿

2025（令和7）年6月15日現在

期	氏名	期	氏名
3期	仲谷 喬	25期	南 寛
5期	小林 哲夫	26期	天川 明久
8期	高石 秀雄	29期	岡田 憲和
8期	松下 勇	30期	木村 亮(会長)
11期	戸川 隆博(監事)	30期	大垣百合子
12期	田畑 磐臣	30期	白井美津子
14期	木村 正	30期	樋之本昌子
14期	山本 早苗	31期	石井 崇夫
15期	河合 孝俊	34期	福田 智子(事務局長)
16期	佐川 公也	34期	大西 伸一
16期	高井 一弘	34期	安田 益弘
19期	鈴木 正穂	35期	柿阪 宜孝
20期	山崎 賢二	35期	奥村 秀夫(会計)
21期	廣瀬ちづる(監事)	35期	末川 協(理事長)
21期	辻 義博	35期	高山 康彦(事務局)
22期	植松 雅博	39期	宮下 貴行
22期	西川 哲	54期	提中 恵
23期	田中 恵子	62期	石野 尚志
25期	橋本 伸生	校長	松井佳代美(顧問)

京都府立鴨沂高校同窓会 会計報告

京都府立鴨沂高等学校同窓会収支決算（2022.4.1～2025.3.31 3ヶ年）

単位：円

会計区分	収支	勘定科目	74期（2022.4.1～）		75期（2023.4.1～）		76期（2024.4.1～）		備考
			予算	決算	予算	決算	予算	決算	
一般会計	収入	前期繰越金	5,093,035	5,093,035	6,203,035	7,126,793	5,260,949	6,147,953	注参照
		年会費収入	3,700,000	2,853,660	100,000	58,000	50,000	162,000	
		入会金収入	480,000	480,000	480,000	476,000	480,000	468,000	
		總會収入	1,000,000	328,000	0	0	0	0	
		名簿その他収入	2,000	1,851,000	2,000	105,000	2,000	179,019	
		受取利息	0	0	0	0	0	0	
		特別から繰入	0	2,969,773	0	0	0	0	
	合計	10,275,035	13,575,468	6,785,035	7,765,793	5,792,949	6,956,972		
	支出	總會費	1,000,000	364,010	0	0	0	0	関東支部出張費含 鴨沂会館使用料 74期分には150周年事業立替 1,610,000円を含む（同期にて返済済）
		会報製作・発送費	1,200,000	2,970,190	0	0	0	0	
		交通費	60,000	20,740	30,000	22,200	30,000	56,360	
		使用料	170,000	135,340	170,000	130,680	170,000	128,580	
		通信費	100,000	1,675,511	100,000	67,578	100,000	59,649	
		事務費	200,000	15,545	200,000	19,538	200,000	10,090	
		備品費	0	0	0	0	0	0	
慶弔交際費		50,000	15,500	50,000	20,000	50,000	10,000		
卒業記念品		170,000	147,875	170,000	146,168	170,000	146,630		
雑費		10,000	114,364	10,000	3,822	10,000	12,412		
奨学金	432,000	432,000	432,000	432,000	432,000	432,000			
支部活動助成金	180,000	180,000	0	0	0	180,000			
HP関係費	0	0	0	85,498	0	6,086			
Zoom使用料	0	0	0	39,056	0	28,056			
活動維持費	400,000	377,600	400,000	551,300	400,000	654,747	会議費含む		
予備費	100,000	0	100,000	100,000	100,000	0			
特別へ繰出	0	0	0	0	0	0			
次期繰越金	6,203,035	7,126,793	5,123,035	6,147,953	4,130,949	5,232,362			
合計	10,275,035	13,575,468	6,785,035	7,765,793	5,792,949	6,956,972			
次期繰越金内訳	現金	—	7,689	—	60	—	43,307		
	通常貯金	—	1,386,041	—	359,392	—	2,153,579		
	振替口座	—	2,733,063	—	2,788,501	—	35,476		
	定額貯金	—	3,000,000	—	3,000,000	—	3,000,000		
合計	6,203,035	7,126,793	5,123,035	6,147,953	4,130,949	5,232,362			

注 74期名簿その他収入欄…立替返金は、73期で立替の使用料241,000円と74期で立替の通信費（郵送料）1,610,000円の計1,851,000円
 76期名簿その他収入欄…150周年記念事業残金寄付の38,019円、会議参加費141,000円の計179,019円

京都府立鴨沂高等学校同窓会 会則

第1条 (名 称)

本会は、京都府立鴨沂高等学校同窓会と称する。

第2条 (本 部)

本会は、本部を京都市上京区荒神町の鴨沂会館内に置く。

第3条 (目 的)

本会は、会員相互の親睦をはかり、母校の教育への後援を行い、もって公共の福祉に寄与することを目的とする。

第4条 (事 業)

本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 会員相互の親睦をはかること。
- (2) 母校の教育環境の充実に関すること。
- (3) 生徒の福祉と健康の増進に関すること。
- (4) その他、本会の目的を達成するために必要なこと。

第5条 (会 員)

本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 母校卒業生、および母校に在学している、または、在籍したことのある者。
- (2) 特別会員 現、旧職員。

第6条 (総 会)

本会は、3年ごとに会長の招集により定時総会を開くほか、必要に応じて臨時総会を開くことができる。

2. 総会では、事業の経過および計画、会計収支決算および予算、会則の改廃ならびに役員人事の報告を行う。
3. 総会の議長は、会長または理事会が指名した理事がつとめる。
4. 総会において議決を行う場合は、出席者の過半数により決定する。

第7条 (年 度)

本会の事業および会計年度は、4月1日から翌年の3月末日までとし、監事による会計監査を経て、総会において会計収支報告を行う。

第8条 (役員および会務)

本会は、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名 理事の決議により正会員の中から選出する。
会長は、会務を統括し、本会を代表する。
- (2) 副会長 若干名 理事の中から会長が委嘱する。副会長は会長を補佐し、会長に事故がある時は、これを代行する。
- (3) 理事長 1名 理事の互選により選出する。理事長は、会務の執行を推進する。
- (4) 会 計 2名 理事の中から推薦により会長が委嘱する。
会計は、本会の経理を担当する。
- (5) 理 事 20名以上50名以内 正会員の中から推薦により会長が委嘱する。理事は、理事会を構成し、事業の推進をはかり、目的の達成に協力する。
- (6) 監 事 2名以上3名以内 理事の決議により正会員の中から選出し、会長が委嘱する。監事は、本会の会計を監査する。会計監査は、中間と期末に行う。
- (7) 顧 問 1名 母校の現校長に委嘱する。

第9条 (任 期)

役員任期は3年とし、再選を妨げない。ただし、次の役員が選任されるまでは、その会務にあたる。

第10条 (理事会)

本会は、適時に理事会を開催し、次の事項を議決する。

- (1) 事業の経過および計画
- (2) 会計収支決算および予算
- (3) 総会の開催
- (4) 役員承認
- (5) 会則の改廃
- (6) その他、必要な事項
2. 理事会の議長は、理事長または理事会が指名した理事がつとめる。
理事会の招集は、会日の2週間前までに、議事の主旨を示

して会長または理事長により行う。ただし、監事が必要と認められた時、または理事の二分の一以上の要求がある時は、その代表ができる。

3. 理事会の議決は、監事を除く議決権総数の過半数により決定する。
4. 理事会は、本会の活動情報を広報するとともに会員の意見集約につとめる。
5. 会長または理事長は、会務に関して専門的な問題を処理するために、若干名の理事による専門委員会を設置することができる。

第11条 (常任理事会)

理事長は、理事の中から若干名の「常任理事」を指名して常任理事会を招集し、会務に関する協議および執行にあたらせることができる。

第12条 (会費等)

本会の運営に必要な費用は、入会金、会費、寄付金および雑収入をもってこれにあてる。

2. 入会金は金2,000円とし、入学時に納入する。
3. 正会員は、年会費として、金3,000円を納入するものとする。ただし、在学中は、これを免除する。

第13条 (経 費)

本会の役員は、その業務執行につき必要な費用を、活動費として受け取ることができる。

第14条 (資金の管理と運用)

理事長は、本会の資金管理に関しては会員全員の共有資産であることに鑑み、その残高の確認には、特段の留意をしなければならない。

2. 理事長ならびに会計は、本会の資産運用に関しては元本が保証された安全かつ有利なものを選択するように留意しなければならない。

第15条 (議事録)

総会、理事会の議長は、議事の経過の要領と結果を記載した議事録を作成し、署名押印して理事全員に開示し、関係資料と共に本部に保管する。

第16条 (細 則)

本会則の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

第17条 (支 部)

本会は、理事会の承認により、支部を設置することができる。

2. 支部は、責任者を定めて、支部会員を掌握しなければならない。
3. 支部の維持や運営に対する助成は、理事会の承認を経て行うことができる。

第18条 (変更届)

会員は、住所や姓名などに異動があったときは、そのつど本会に報告するものとする。

第19条 (個人情報)

理事は、会員の情報を「個人情報の保護に関する法律」の規定に従い、慎重に取り扱わなければならない。

第20条 (会則外事項)

この会則に定めのない事項については、他の同窓会慣習や法令の定めるところによる。

付 則

1. 本会則は、昭和25年5月21日より施行する。
2. 昭和33年10月11日 一部改正
3. 平成8年11月18日 一部改正
4. 平成11年11月14日 一部改正
5. 平成20年10月8日 一部改正
6. 平成23年9月16日 一部改正
7. 平成26年7月5日 一部改正
8. 平成29年1月28日 一部改正
9. 令和7年6月15日 一部改正

Casa 八幡前

[24.88m² 2階 1R (洋室7.1帖)]

京都市左京区岩倉三宅町 28-5
叡山電鉄鞍馬線 / 八幡前駅 徒歩1分



洛景工房株式会社

<https://rakuhei.com>

京都市上京区烏丸通丸太町上ル春日町 426-2

tel. 075-585-5082

代表取締役 苧阪友作

昭和 57 年度卒業生 (第 35 期生)

ALC

 [アルク]

Library & Gallery

2F 美術の図書館 / 3F 貸ギャラリー

<https://alc.tkcfnf.com>

30期 横井猛彦

末川協建築設計事務所

<http://www.kyosue.com/>

株式会社 西村石灯呂店

京都市左京区北白川琵琶町



祇園辻利

祇園本店 / 京都市東山区祇園町南側573-3
京都駅八条口店 / 京都八条アスティロード
大丸心齋橋店 / 大丸心齋橋店 8階
東京スカイツリータウン・ソラマチ店 / 東京スカイツリータウン・ソラマチ 6階

茶寮 都路里

祇園本店 / 祇園辻利本店 2階・3階
京都伊勢丹店 / ジェイアール京都伊勢丹 6階
大丸心齋橋店 / 大丸心齋橋店 8階
大丸東京店 / 大丸東京店 10階

ご注文
お問い合わせ

TEL. 075 - 525 - 1122
www.giontsujiri.co.jp



〔コロナ禍後、5年ぶりに昨年10月20日に
総会を開催しました。〕

鴨水会

鴨沂高校水泳部 OBOG 会

会長 高山 康彦 (第35期生)

副会長 木下 秀一 (第40期生)

井上 武史 (第44期生)

事務局 村田 忠史 (第42期生)

一般財団法人 大和松寿会

中央診療所

所長 長井苑子 (18期)

●一般・専門外来 (初診・再診)

間質性肺疾患・サルコイドーシス外来, 膠原病・リウマチ外来, 循環器外来, 神経内科外来, 睡眠時無呼吸相談外来 他

	月	火	水	木	金	土
9:00~11:00*	○	○	○	○	○	○
13:00~15:00	○	○	○	○	○	×
17:00~19:00	○	×	×	○	×	×

★土曜日は12:00まで。

●健康診断・人間ドック

〒604-8111 京都市中京区三条通高倉東入榎屋町58・56番地
外来診療 TEL 211-4502 健康診断・人間ドック TEL 211-4503
<http://www.chuo-c.jp>

●訪問看護ステーション やまと

〒604-8111 京都市中京区三条通高倉東入榎屋町59番地1
フェリーチェおかむら401号室
TEL 366-5018 FAX 366-5468 <https://www.chuo-h.jp>

明日を、つなぐ。



ゆう薬局

代表取締役会長 宇野 進
(昭和40年度卒業 第17期生)



※2025年6月現在
ゆう薬局グループ

108店舗

京都府: 103店舗
滋賀県: 5店舗

本部:

〒606-8413 京都市左京区浄土寺下馬場町106
TEL:075-771-1690 FAX:075-752-9539



不動産のことなら...

Feliz 有限会社 フェリス

〒602-0915

さんてい
京都市上京区中立売通室町西入三丁目4番地4
TEL 075-417-1234 FAX 075-417-1230

大垣書店

KYOTO since 1942

京都本店

京都市下京区四條烏丸 (京都経済センター1階)



大垣 守可 2009年 卒

第14期生 有志一

石田須巳子	植田 鈴枝	榎 美智子
大塚 勲	岡 莞哲	奥村 一孜
奥村美佐子	小嶋紀美子	解良 新二
種田ヒサ子	濱本 喬	藤澤 丈夫
前川 正伸	森口 紗代	山本 早苗
矢野 文夫	<あいうえお順>	

竹村診療所

麻酔科・ペインクリニック内科
内科・小児科

竹村光博 (昭和 58 年卒)



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
A.M.9:00~12:00	×	○	×	○	×	○	×
P.M.5:30~8:00	×	○	×	○	×	×	×

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 1-16
(みやこメッセ西側)
TEL/FAX (075)762-5405

第 21 期生

(昭和 44 年卒業)

辻 義博

住宅・店舗 設計施工 株式会社 福井

〒606-8313

京都市左京区吉田中上路町 4-3

TEL075-761-0295 FAX075-761-0297

14期卒業生 福井 武司

鵬友会 四期 森 實(鵬友)



since 1896

キョウトのスイカイ

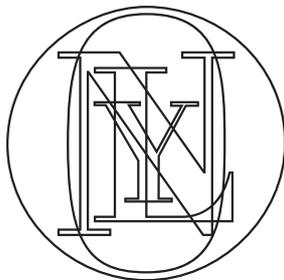


京都踏水会はおかげさまで 130 年の歴史をもっています。
乳児からジュニア、中高生、成人までの生涯水泳を推進しています。
また競泳・水球・シンクロと各方面への選手育成とサポートに努めています。

京都の街とともに歩んで
おかげさまでこの夏に 130 周年を迎えます

京都踏水会水泳学園
公益財団法人 京都踏水会

<https://www.kyoto-tohsuikai.jp>



ONLY

株式会社 オンリー

相談役 中西 浩一

(昭和 40 年卒 17 期)

〒600-8427 京都市下京区松原通烏丸西入ル玉津島町 303 番地
TEL : 075-354-4129 FAX : 075-354-4130 www.only.co.jp



公益社団法人京都鴨沂会の活動

おうき

公益事業

直近10年間に延べ86校の高校生154名が奨学生となりました。大学進学支援金は医療従事者(医師、看護師、保健師)育成の分野に進学する高校生を対象にしています。

京都府下の公立高校および教育担当者を対象に、生徒の学力向上および教諭の資質向上のための助成費を支給しています。



高校への教育研究助成金

高校留学生 外国人向け 日本伝統文化体験

直近は13か国13名の高校留学生が茶道、華道、書道を体験しました。京都に滞在中の海外からのアーティストに延べ15名が茶道、華道、書道を体験しました。

●華道教室



●能楽教室



高校生への給付型奨学金 大学進学支援金

鴨沂会館の貸室 文化活動の練習拠点

合唱、吹奏楽、管弦楽、演劇、ダンス、様々な文化活動の練習や発表の拠点として現在30以上の団体、グループでご利用いただいています。



収益事業

正会員 賛助会員

どなたでも会員になって、鴨沂会の活動に参加いただけます。

会誌 イメージアークイブ

「鴨沂会誌」(明治20年創刊)を発行継続しています。明治、大正、昭和の学校生活を記録した写真を保存公開しています。

賛同いただける
会員を
募集しています

事務局

実務を担当

理事会

会員から選挙で選ばれた理事、監事構成。運営を担当。

ボランティア活動 地域の文化活動 支援

福祉施設、病院などで行われる茶道、華道、書道、舞踊、音楽演奏などのボランティア活動をコーディネートしボランティア活動助成金を支給しています。

教養講座

学術・芸術・文芸・科学・環境・医療・福祉など、様々なテーマについて講師を招いて公開講演会を開催しています。



鴨沂会館の文化教室

鴨沂会館のレンタルスペース



数名から100名のレクチャーまで、1時間からお借りいただけます。
鴨沂会館を様々な文化活動でご利用いただくことが、社会貢献に繋がります。

鴨沂会館ではホールや会議室のレンタルを行っています。ホールにはピアノが備えられ、オーケストラ、室内楽、コーラス、演劇、舞踊、ダンス、バレエなどの練習場、ホール及び会議室は、講演会、講習会、会議などに、和室は、茶道、謡曲、仕舞、邦楽など伝統芸能の教室や囲碁、将棋の対局などにご利用いただけます。
Webサイトから空室確認、予約いただけます。

ホール301
定員約50人(7.5X8.5m)
※上履が必要です
グラントピアノヤマハG2

和室
定員14人(8畳+6畳)

新館ホール
定員約100人(10X14m)
グラントピアノヤマハG3

新館和室
定員18人(10畳+8畳)

新館談話室
定員24人
アップライトピアノカウイク

102
定員8人

新館会議資料室
定員約22人
※新館会議資料室で会議利用の無い時間帯は、シェアオフィスとして個人でご利用いただけます。

シェアオフィス

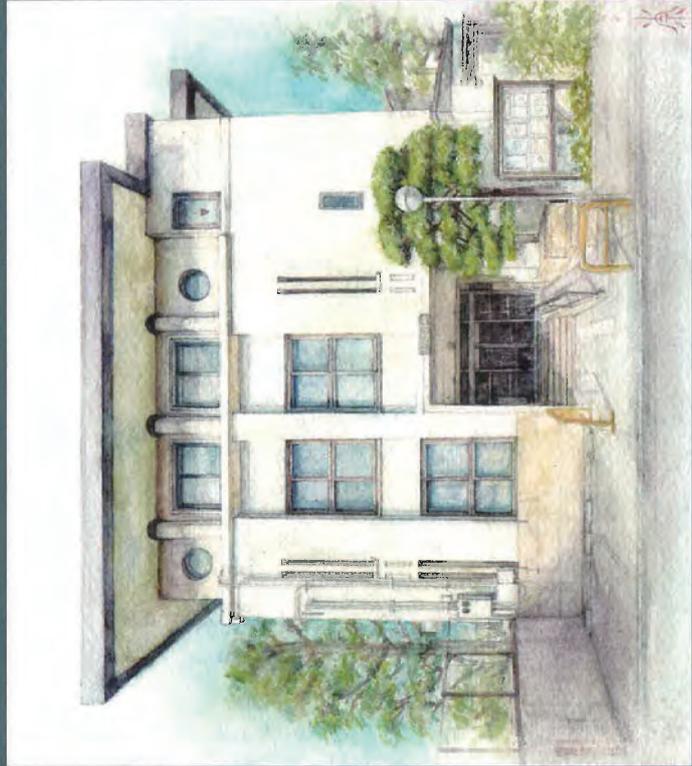
ホール101
定員約30人(6X9m)
1壁面鏡あり※上履が必要
アップライトピアノヤマハW116

ホール201
定員約70人(6.5X16m)
※上履が必要
グラントピアノヤマハC3L

Public interest incorporated association

KYOTO OUKI-KAI

とんでもない入会でも入会できる開かれた団体として
教育・文化・福祉振興の公益事業を中心に活動しています



おうき 鴨沂会館(荒神口通寺町東入)
昭和11年(1936年)竣工。昭和モダニズムを基調としながら和風デザインを配した京都市近代化遺産として
「京都市近代化遺産調査報告書(近代建築編)2006年」に掲載されました。
松尾泰保(平成26年度奨学生)2023年制作

おうき 公益社団法人京都鴨沂会



公益活動をしてみたいと思われの方へ

年会費2000円で公益社団法人の一員として社会貢献に参加いただけます。
当会の活動にご賛同いただき、ご入会、ご寄付をお待ちしております。

(鴨沂会はどなたでも
ご参加いただけます)

入会費 / (正会員、賛助会員とも) 500円
正会員 / (個人) 年会費 2,000円
賛助会員 / (団体) 年会費一口 10,000円
振込口座 / ゆうちょ銀行 01050-3-21991

公益社団法人京都鴨沂会
ご送金後、webフォームからご連絡いただくか、直接
会館で申込書をご提出下さい。クレジットカード可。



公益社団法人京都鴨沂会
〒602-0856 京都市上京区
荒神口通寺町東入ル荒神町105
Tel: (075)231-1001
Fax: (075)241-2354
ohki-kai@wb3.so-net.ne.jp
webサイトではご案内、活動報告、
写真アーカイブを掲載しています。
www.ohki-kai.org
f ohkkai X @Ohki_kai

京都府立鴨沂高等学校同窓会 第11回総会・懇親会のご案内

日 時：2025（令和7）年11月8日（土） 15時30分～

会 場：京都府立鴨沂高等学校 講堂 TEL075-231-1512

京都市上京区寺町通荒神口下ル松蔭町131

15：30 受付 15：45 総会 16：45 終了予定

懇親会：KKR 京都「くに荘」 鞍馬の間（5階） TEL 075-222-0092

京都市上京区河原町通荒神口上ル東入桜町27-3

17：00 受付 17：30 開宴 19：30 終了予定

会 費：8,000円 ※出席回答者には振込用紙を送付いたします

総会同日、ホームカミングデイ開催

14：00 受 付

14：15 挨拶 同窓会会長、学校長

14：25 施設見学 3～4グループに分かれて校内散策 [在校生による案内・説明]

15：15 活動報告 フランス・ジュールゲート国際高校との交流の様子を在校生により報告

15：30 終了予定 施設等見学終了後

【同窓会費の値上げのお知らせ】

鴨沂高校同窓会の皆様、日頃は同窓会の活動にご協力頂きありがとうございます。

昨今の物価高、特に郵送料の高騰を受け、同窓会活動の根幹の一つである同窓会報の発行費用が同窓会会計を圧迫する状況にあります。そのため特別会計からの借入れや貯蓄口座の切崩しにっております。

コンテンツのデジタル化、会費納入者に発送を限定するなどの議論もありましたが、同窓会理事会では、同窓会年会費を従前の2千円から3千円に値上げすることといたしました。皆様にはご理解をお願いいたしますと同時に、同封の振込用紙にて3年分の会費の納入を何卒よろしくお願い申し上げます。

<編集後記>

私は、今日まで6人の会長の下で理事を担って来ました。3年ごとの同窓会報は、新聞部の先輩方で編集に慣れた理事の方が、上手く作成されてきました。今回の編集では、ベテランの理事が抜けたことにより、進んで編集委員に手を上げました。私が特筆すべき寄稿は、「上村先生の思い出」です。廣瀬ちづる監事が寄稿依頼に対し、当初固辞されましたが、「あなたしかいない」と、無理を聞き入れて頂いた次第です。

会報の「作成や発送」が、同窓会の会計3年間ごとの支出の大半を占め、重く押し掛かることから、10年ほど前から「協賛広告」を始めました。編集委員などで分担し、営業に回りましたが事情は厳しく、以前の10ページに対し3ページに過ぎませんでした。新聞・テレビなど各メディアは、広告費ですべてを賄うことを考えれば、早くから理事会総力を挙げて戦略的に取り組まなければと痛感したものです。(K.Y.)